

はじめに

現代の工業技術は、世界的な社会情勢の変動のもとで、人と政治経済と強く関わりながら問題提起され創造展開される場所に特徴がある。技術者にとってもこれらの認識は不可欠であるが、大学内だけで十分に体得されるものではなく、現場で一定期間実務を体験し、応用力を身に付けることにより初めて会得できる。

本学が実施している実務訓練は、工業技術の現場におけるさまざまな現象、実態を認識し、経験する過程を通じて「指導的技術者として必要な人間性の陶冶」と「実践的技術感覚を体得させること」を目的とする。また、現場で活動する人々と交わり、現場指導者の指導のもとに実務を体験し、その中から得られた成果を、大学院修士課程での研究活動に生かし、自己の経験を将来の職業選択への基礎的認識とするとともに技術の創造的展開に大きく役立たせようとするものである。本学の「実務訓練制度」は、文部科学省・経済産業省・厚生労働省が平成9年度以来推進している「インターンシップ制度」に先駆けて、昭和54年（最初の第4学年）から開始し、整備・充実を図りながら継続して実施してきた。

この実績により、「実務訓練」は、平成15年度 文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に選定された。また、同年、(社)日本工学教育協会の「工学教育賞」（我が国の工学教育に対する先導的、革新的な試みによって、高等教育機関における工学教育の発展に多大なインパクトを与えた業績を表彰する）において、最高賞の「文部科学大臣賞」を受賞した。

今後も実務訓練学生の受入先となる企業等の理解と協力のもと、実務訓練制度のより一層の充実・発展を目指している。